

児童の個性及其取扱法

文學士 松本孝次郎

詰り前號に御詔した様にする所で調和的の發達をする様になる、専門的の教育になりますると自分の得意な長所とするところが餘計發達しても宜いのでありますけれども、今日専門的の教育を受けるまでに進みまする間といふものは今日の學校の程度から言ふと普通學で普通の教育を受けなければならぬその普通の教育を受ける間といふものは成るべく調和的の發達をして居らなければ能く普通教育を受けることは出来ないので、昔の専門家には隨分議論が少し普通の人とは變つた人があつたのです、それは詰り其持つて生れた儘の個性をば唯其儘に長せしめたから或事柄には非常に長じて居るけれども、共人間として見たならば畸？愚人であるといふ様な風になつて仕舞つた、今日の時代に於てはそれでいけない、愚人として生れて仕舞つては社會的の性質が無くなつて仕舞ふといふ譯

でありますから其社會的の性質を重んずるといふ心があるならばどうしても實際的の發達をさせて置いて其上に自分の個性の長じて居る方を餘計に發達させる方法にしなければどうしても當前の人間は出来ない様になるのです、尚、想像の材料といふもの、中に於て唯今御話しました眼で見たこと茲に耳で聞いた事を重もに材料として其様な性質の小供の外に尙能く一つ注意して置くべき事それは唯今御話した程に必要ではありませぬけれども、一つ注意して置くべきことは筋肉の運動に訴へて得たる力を重もに能く覺へて居る事があります、それは少し大きくなつた小供等でありますと著しく分るので自分が自分で以て手で書いて見なければ能く覺へないといふやうな小供があります、今或役所に勤めて居つて會計をやつて見て見なければ能く覺へないといふやうな小供が居る人でありますと餘程其役所では物の計算をするのに巧みで餘程調寶な人だと言はれて居る人で暗算で何でもやる人がありますけれども、其暗算をする際にはどうしても指を動かして居らなければ暗算

が出来ない人がある、それらは矢張り此筋肉運動に訴へた方のことと能く覺へて居る性質の著しき場合なのです、或は表で以て兵隊が歩いて居のを聞いても其兵隊の足は地位の力が這入つて居るか覺へて居る様な注意の出来る人はそれは詰り筋肉運動の方から來る事柄を多く材料として居る人であります、相撲を見て居つても其相撲に餘程面白味があつて相撲の身体にはどれ丈けの力が這入つて居るかを想像の出来る人は筋肉から來た材料を多く使つて想像をする人であります、或は大勢の人が一緒に居ります際にどうして書物を讀む際に音讀をするとは許されない黙讀をしなければならぬそれだのに矢張り口を動かして居る人は筋肉の運動に訴へたもので無ければ覺へられない、想像が能く出來ないやうな人であります、さう云ふ所に個性が表はれて居るので小供の中にも想像の材料とするのに筋肉運動に訴へたものだけ想像の材料にするといふ小供があります、是等は併し前に申しました様な耳や眼の相違に較ぶれば極僅かでありますから唯斯う云ふ事があるとい

ふ事丈けを御注意して置くに止めやうと思ふ、矢張り普通の小供でも成るべくは眼も動き耳も動くといふばかりで無く筋肉の方の記憶も充分に出来るといふ様にしたいものである、だから矢張り小供を保育する上に於ては此筋肉に依つてやつたことを能く覺へるといふ事も大變必要で例へば或線を引かせましても此線を引くのに筋肉で運動いたしまして引きますからして此筋肉の運動を能く覺へて居る小供であるならば自分の眼で此線を見ぬでも眼を開つて居つて線を引きましてどの位の長さを引いたかといふ事を覺へて居ればそれは筋肉に關する運動を覺へる所の個性の人と言はねばならない、若し練習を與へれば其小供は筋肉の方で發達する事が出来る詰り調和的の發達を求めてましたならばさう云ふ色々の點に注意して發達させなければいけないのですとこれが一つ欠けて居つても矢張り將來發達する上に付て妨げになる、成る可く色々の方面に發達の出來て居る様になつて居らなければいかぬのです、それから今度は想像の作用の方から考へました個

性はどう云ふちになつて居るか、その第一に御話しますのは小供が畫を描くといふ場合に於て表はれて居ります、一つの個性に付て申しますと或小供は今自分の隨意に畫を描いて居るといふ場合に於きまして他の人へ寄つて之を見やうといたしますると直ぐに描くことを止めて仕舞ふ或は之を秘すやうな事をいたします、或小供は決してそれを秘さない誰が来て見て居つても人が見て居るならば得意になつてドシ／＼自分の隨意の畫を描いて居る小供があります、此二つの場合に於てまして小供の個性が矢張り違つて居るものであるといふ事を認めることができます、他の人が見て居りましても一向構はずにドシ／＼と描く方の小供は是は畫は餘程上手で將來餘程發達するであらう、或は巧みになるであらうと思はれますけれども其實は決してさう云ふ譯ではありません、さう云ふ譯にはいかぬのです、何故いけないかと言ひますと他の人が見て居つても恥かしがらずに活潑にほん／＼描くといふ方の小供の描く材料はどう云ふやうなものを重々に描くのかと言ひますと大

抵自分が他で以て見た事があるといふ様なことを覺へて置いて、さうしてそれを其通りに描くのです、自分自ら考へ自分自ら工風して描くといふ方の性質が乏しくなつて唯モウ覺へて居る事をば其通りに再び現はすこと一が出来ないのであるから其描いた所の畫に付て此畫は自分で考へたのか何處かで此畫を見たのかと聽きますと見た事がわるといふ方の答を與へる場合が多いのです、自分は其小供の將來の發達は低い程度であるといふ事を表はすものでありますそれから他の人が側に見自ら工風をしないでした事にして居るといふものは其小供の將來の發達は低い程度であるといふ事をして能く見せない方の小供はどうかと言ひますし、唯線の引方でも何でも餘程注意をして引いて居る、一体の描方などが遅い、ユツクリ書いに満豆出来る様に描くといふ事に付ては餘程骨を折つて居る、だから容易に筆を動さないのである、だから其緻密な性質は餘稅片方の小供よりは却つて長所が多い、綿密な思想に富んで居る點に於て

は餘程長じて居るので、さうして此類の小供は自分が見て來たことと描くとしても成る可く見て來た通り少しも違はず様に描きたいといふ考を持つて居る頭脳が先づそれだけ綿密である緻密であるさうして又成るべくは自分で考へたことを描きたいといふことを求めて居る、それだけ詰り工風力が多いと言つて宜いのです、斯う云ふ譯でありますから此個性の表はれ方に依つて保母が注意すべき點は其活潑な方の書を描く小供に向つては必ず自分の見て覺へて居る所ばかり使はない様に緻密に能く誤らない様に描かなければならぬといふ事を注意して、さうして成る可く思想を綿密にする様に致しまして且又幾分か自分の工風で描く書を混へさせる様にしなければならぬ、唯見て來た通りに描くので無く努めて自分自ら氣を附けて工風をして描くことを注意しなければならぬ、それから自分で躊躇して描いて居る小供は成るべく筋肉の運動の練習といふことを能く注意してさうして筋肉の運動が出来て參りまして同じ直線でも早くして適當の長さに引ける詰り熟練させる方には

氣を附けることが必要です、寧ろ此方の性質の小供は自分が工風する方に走り易いもので自分の耳にしたことを覺へて其通り描くといふ模寫的の書は割合に好まない傾きがありますから幾らかさう云ふ類の者はこちらから命令的に模寫的の書を描かせるといふ取扱方も大層必要な事であると思はれます、然し斯う云ふ様な譯でありますから同じ小供に書かせる様な場合に於きましても成るべく其個性の表はれ方を注意して其各々の小供の性質に適ふ様な取扱方をするとは概して必要です、それから第二の場合は想像が餘り多過ぎる方の小供です、想像に關します個性の中で第二に屬るのは餘りに想像といふものが餘計に働き過ぎましてさうして常に空想に耽るといふ事はチヨツと可笑しい様に思ひますけれど共矢張りさう云ふ類の小供が往々あるものであります、想像に富む小供でありながら空想に耽るといふ事はチヨツと可笑しい様に思ひますけれど共矢張りさう云ふ類の小供が往々あるものであります、想像に向つて作つたことを多く饒舌るやうになるのです自分の空想に依つて考へられたことを怡も實の

事である様に考へて仕ふ様になるのです、詰り眞の事實といふこと、自分の空想で以て考へ出した事との區別が能く附かないでの、それで別段惡意があるといふ譯ではありませぬが唯自分が考へた丈けを言つて仕舞ふのです、さうして又實際さう云ふ様な想像に富んで居る小供でありますといふと自分が唯空想で考へた事でも恰も實際眼前に人々と現はれたやうに、實際有ることの如くに自分は思はれる事があります、

元來小供の幼稚なる時には之を大人に較べて見て或は青年時代の小供に較べても少年時代に較べても概して幼稚の頃には想像の方に富んで居る者でそれ丈け詰り精密なる智識の方が欠けて居るもので、始よりは極ボンヤリした智識で精密な智識に欠けて居る傾きがあるので、先づ我々の發達したる心から見れば大抵は想像的の事が多いやうな有様であります、特別の想像力に富んで居る小供はどうも空想に傾いて其空想をは恰も事實である様に話をする様になつて居るので、それである人が其小供の空想に依つて出たことをば話されてさうして非常に愉快を感じて喜ぶ様なことを見ますると段々に其空想に耽つて居る小供は次第に人を喜ばせるが爲に誤つたことを言ふ性質が出来る様になつて来る、何も自分に取つてはどう云ふ利益がある譯でも無いけれども唯他の人人が喜ぶのが面白いといふことになつて来るさう云ふ事柄は抑も虚言といふことの始り、同じ虚言でも無邪氣の虚言でありますがそれが若し小供は悪い心があつてそれと合しますといふと今度は自分の利益の爲に或は自分の主人の利益の爲に虚言を言ふ様になるのです、さう云ふ僕な譯で此虚言といふ事とそれからして唯空想に耽つた爲に間違つて居ることを言つたのとは之を取扱ふ上に於て區別を立つて置くことが必要です、虚言といふ方は是非モウ始めからして惡意があつてさうして事實の無いことを云つた場合は之を虚言と名けて宜しいのです、それからして惡意が無くして唯想像力の盛んな爲に誤つた事を言つた方はそれは誤つたこと間違つたことをいふ様に責めるのは宜しいけれ共虚言を言つたといふ様に責めることは

無いのです、元來普通の小供でも小供の時には唯今申します通りに想像力が盛んなものでありますから少し小供の固圍の境遇が良くありますと嘘を吐くやうになり易い傾向があります、幼稚園の保育の上に於きましても私其が屢々觀察して恐れて居ることは保母自身が嘘でせうといふやうな言葉を用ゐることは實に非常にイヤな物であると感じて居る、例へば小供が或製作品を家から持つて来ます時に保母の方でそれはドナタが御作りになりましたか、と問ひ私が作りましたと小供が答へる時に餘り良く出来て居るがそれは嘘でせうと斯う云ふ事を言ふ人が澤山ある、其言葉を聞くなりましたか、と問ひ私其が作りましたと小供がと誠に不愉快な感じがしますので詰り家庭の中に於てでも或は幼稚園に於ても嘘といふ言葉を教へるといふ事は未だ惡意を知らない者に悪い智恵を授けると同じ様なもので詰り想像力の盛んな時代の、間違つたことを言ふかも知れぬけれど共未だ嘘といふ名前を附くべき事を言ふ事は甚だ少いので此小供の想像力の盛んなといふ性質から考へて見ますと一体に小供を取扱います境遇を餘程氣

を附けなければならぬので例へば家庭などに付て考へて見ましても屢々見ることでありますのが客などあります時に平生被せてある着物が餘り汚れて居るといふ考へからそこで衣服などを取換へさせてさうして來客の前へ小供を出すといふやうな習慣を取つて居る家庭などがありますけれどそれは確かに一つの悪い取扱方です一種の偽善といふことを教へる様な取扱方であつて人の前を繕ふとか人前を飾るとかいふやうな取扱方で、矢張りそれだけ人の前にも出せぬやうな不潔であるならば來客の無い時から既に其衣服を取り換へさせて仕舞つて宜しい譯でありますさうで無い限りは矢張り其儘多少汚れがあつても構はずに客の前へ出す方が正當な取扱方であります、矢張りさう云ふ所で虚言の性質を養ふ様になるのです、殊に家庭の客來といふやうな事に付て一方から言へば小供の爲に大層好い経験を與へる様な機會でありますけれど共又他の方から考へると餘程危険な時と言はねばならぬ、詰り客が来ます様な時に小供が母親などに色々な強請ごとをやる、母親は平

生自分の嫁方の不行届であることを見附けられな
い爲に一時小供の強迫に遭つて何でも小供の言ふ
通り採用しますと、さうすると來客のある毎に
始終小供に強迫される様になる、それから又客が
御世辭といふものを小供に向つて言ふ、それが小
供に對して虚言を教へる機會になる又主人の方で
も客に對して御世辭を言ふから矢張り御世辭を教
へて居るやうな機會を小供に見せて居る、だから
餘程客を接待する上に於ても或は他の家に客とな
る上に於ても此小供の爲に御互に注意する點が無
ければならぬ、小供は初て來た客に對して羞かし
がる時代に於ては御世辭などをしないものですが、
所が母親が頻に御世辭をせよと言ふ、御客の方へ
はイエモウ遠に御世辭をなさいましたと言つて呉
る、だから小供に嘘を吐く御手本を示す様なもの
であります、だからしてどうして想像力の強い
時代に於てさう云ふ境遇を與へることは非常に危
險と言はなければならぬ、今日の家庭或は社會の
有様から考へて見ると此想像に富み過ぎて居る小
供に對して危險なる機會は澤山にあります、それ

は餘程保育上に於ては御注意にならぬといけない
様に思ひます、現に幼稚園にありました一つの例
を御話しますと小供は非常に想像力に富んで居つ
て自分が學校へやつて來る時にでも別段に自分の
家には這入口の所に兵隊などが番をして居ること
は無いのに幼稚園に來てから後自分の友達に話し
て居る所を聞くと私の家の門の所に兵隊が番をし
て居る毎朝自分と一緒に連れ合つて來る、能く事
情を知つて居る小供にでも平氣な顔をして話す
るのは何の爲かといふと自分の空想の浮んだ所を
ば怡も事實の如くに思つて其通り述べて仕舞ふの
であります、
斯う云ふ様な小供を取扱いますのはどう云ふ様
にしたら宜いかと言ひますと先づ最初に於ては空
想に耽るやうな暇の無い様にさせることが必要で
す、それは成るべく身體を動かして出來るやうな
簡単な仕事を課する方が最適當である、詰り頭脳
を館計使ひ過さる小供でありますから成るべく身
軀を動かして頭脳を餘り働かせないで澤むやうな
仕事を成る丈に餘計やらせるといふ事が平均を取

る方法になるのです。其他餘り頭脳を使はないが手或は指で以てやります仕事でさうして機械的の熟練に依つて出来得るやうな、例へば織物とかさう云ふ類の事はやらせても宜しい、詰り空想に耽つて居るならば其出来上り高が少くなりますから直ぐに認められる譯でさうして只遊ばせて置く譯にもいきませぬから丁度始終注意は働いて居られ共空想に耽ることは出来ぬ、唯指を自分で熟練して居る様に動かして行くことが必要であります

大器は晩成

下田歌子

亞米利加にせよ歐羅巴にせよ今日世界に雄飛して居る所の國の子女は十歳位迄の智識の進み方の鈍いことは逆も我國の子女の鋭敏なるが如きものではない。現に小学校に通ふて居る時分でも彼國の児童は鈍くして我國の児童は餘程賢しい。二十歳になつて男子ならば中學校、女子ならば高等女學校を卒業するかした位の青年でも彼國の人は誠に

ばかりして居りますが、日本人の方はなか／＼賢いのあります。然るに二十歳より三十歳といふ年輩になりますと今度は正反對の傾向を生じて来ます。此時分には日本人は最早成業したと思ふて安心しますが外國人は此年齢より大に奮發心を起して十分智能を發達せしめ、これから本當に立派な人物にならなければならぬ。大なる研究を遂げなければならぬと云つて大に精力を注ぐのであります。而して三十歳より五十歳に及び世間に出て盛んに事業を營んで年輩に達すると日本人は之と對抗駆進することが出来ずして負ける様になります。東洋の識者も昔から大器晩成といつて居る通り大なる器と云ふものは晩く成就するものでありますゆゑ速成はいけません。速成のものには大器が無い。此點は世の父母教師たるもののが深き注意を拂はなければならぬ女子教育上の要訣であります。

(なでしこ)